

健康寿命の延伸に向けた研究への取り組み



人間看護学部 人間看護学科

講師 岡崎 瑞生

研究分野 : 看護学、老年看護学、生活の質

概要：生命・生活の質や対象者の思いに関する研究、高齢者や障害のある人々の支援につながる研究をしています。対象は、高齢者、障害のある人々、家族などです。

■ダウン症候群のある人の健康管理に関する研究

【背景・目的】我が国における総人口に占める高齢者の割合が急速に増加している中で、障害者の人口構成も高齢化に向かっている。ダウン症者が地域で健やかに成長し老いを迎えるためには、健康管理の必要性を周囲の人々が認識する事が重要であるが、現状は明らかではない。地域で生活するダウン症者が増加している中で、ダウン症者の健康管理についての現状が明らかになれば、健康寿命延伸の一助になるのではないかと考え、文献調査により、日本におけるダウン症者の健康管理に関する研究の動向を概観した。

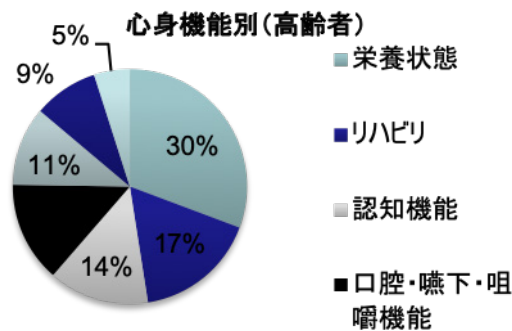
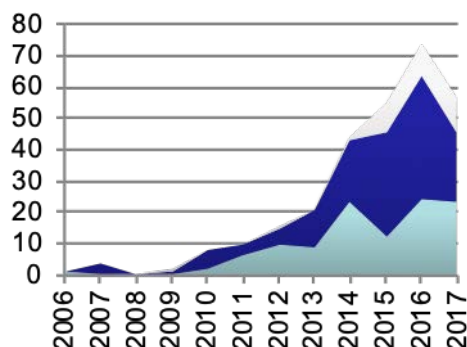
【結果】現在まで13件の原著論文が発表されていた。文献は「知的障害者福祉法（1998）」「健康日本21（2000）」施行後の2000年のものが最も古く、それ以前は特集やレビューであった。

【考察・結論】ダウン症者の健康管理に関する研究は【歯科】に関する研究が多いが、全体として極めて少ない事がわかった。高齢化するダウン症者が地域で健康に生活していくため、老年期を見据えた健康管理に関する研究とそれを後押しする施策が実践されていく事が期待される。

対象の年齢層	研究の着眼点
・成人期対象 : 5件	【歯科】に関する研究 : 6件 (肥満など生活習慣病を含む)
・全年齢層対象 : 4件	【健康管理の実態】に関する研究 : 4件
・家族対象 : 2件	【家族支援】に関する研究 : 1件
・小児期対象 : 1件	【言語】に関する研究 : 1件
・老年期対象 : 1件	【療育】に関する研究 : 1件

■サルコペニア、フレイルについての研究

日本におけるサルコペニアに関する研究の動向（文献調査）



サルコペニアに関する研究は、近年【疾患別】よりも【心身機能別】が増加傾向にあることが分かった。介護予防に向けてADLの維持・向上のために、生活機能に焦点を当てた研究が増えていくことが期待されるが、「高齢者」で「運動療法・リハビリ」との関連についての検討が少ない点が課題と考えられた。

■エスノメソロジー（民族看護学的研究方法）を用いた研究

1型糖尿病患者の思春期における心理的体験について、エスノメソロジーを用いて研究した結果、思春期の1型糖尿病患者の体験世界を表す大テーマ「【分からない】事や【めんどくさい】事、【困る】事が多く混在し、【もうしょうがない】と考えないようにしたり、放っておいたり我慢したりしている中で、2型糖尿病とは違う事と経済的負担は【言いたい】事として発信している。」が明らかになり、実践への示唆として、混乱しがちな【分からない】事を整理し、知識に関する事について再確認の場を提供する、認知の発達段階を踏まえた指導・教育方法を用いて認知能力の変化する12歳前後に指導・教育方法を変えて再教育する、思いの表出の仕方を支援し、1型糖尿病について社会的理解を広める事の必要性が得られた。